

6 アニマルウェルフェア

発表者:岡田千尋

調査者名:岡田千尋



- 今回調査のポイント

トイレタリー製品企業に対するアニマルウェルフェアの関心事項
= 「動物実験」と「動物由来成分」が中心



**動物実験の削減と
行う場合の制限**

“化粧品（薬用含む）”についての方針はあるが、それ以外については方針がない傾向

**動物性由来成分の
飼育方法と削減**

トレーサビリティも行われておらず、把握も改善も進んでいない傾向

総合点の分析



花王	ライオン	サンスター	ロート	クラシエ	サラヤ	I-ne	P&G	ユニリーバ
2	1	2	3	1	1	2	3	3

P&G、ユニリーバは取扱製品分野が他社より少なく、該当しない設問があったため満点が低かったため、総合評価で3になった。

獲得点数が高いのはロートだった。

クラシエ、サラヤはほぼ方針がない状態だった。

動物実験



前提事項：

2回の紙ベースでのやり取りで動物実験の方針について正確に把握することは不可能
各社ポリシーの書き方があやふやであり、公開情報からも正確に把握できない

求められる取り組み

化粧品

すべての地域での動物実験廃止

化粧品以外の
医薬部外品

できる限りの動物実験廃止
分野ごと廃止を決定しその範囲を広げること

食品、農薬
化学物質

できる限りの動物実験廃止
分野ごと廃止を決定しその範囲を広げること

医薬品

できる限りの動物実験削減
行う場合の規定の策定と公開

8社に方針あり

あやふやな企業が多い

動物実験を行っている場合にはより開示が必要



動物実験を行っている際に必要な取り組み・開示

- ◆動物実験倫理委員会に利害関係のない第三者を含めている
- ◆使用した動物数を公開している
- ◆動物実験は全てAAALACまたは一般財団法人日本医薬情報センターの外部認証を得た施設でのみ行う、または委託している
- ◆動物実験のエンドポイントを定め、研究途中であっても切り上げることを規定している
- ◆動物に携わる従業員に対し、アニマルウェルフェアについてのトレーニングを行っていることを確認している
- ◆代替法が存在する動物実験は行ってはならないとする方針がある
- ◆動物実験を減らす目標を立て公表している

要するに3Rsの実践



Replacement 置換

生きた動物を使わな
い方法に置換

動物の細胞、組織または臓器を利用する方法の使用(相対的代替)、および科学的目的を達成するために動物の使用を必要としない方法の使用(絶対的代替)を指す

Reduction 削減

実験に使う動物の数を減らす

より少ない動物から同等レベルの情報を取得できるようにする方法、または同じ数の動物からより多くの情報を取得できるようにする方法の使用を指す

Refinement 洗練

実験方法を改善することで動物たちの苦痛を軽減する

動物の痛み、苦しみ、苦悩または永続的な害を防止、緩和、最小限に抑え、福祉を向上させる方法の使用を指す
種の選択による洗練も含む。また飼育～安楽死まですべての工程を考慮するものとする

Responsibility (実験者の責任) やRecord (実験記録の適切な保存) を加え、4Rや5Rを掲げる機関も。

動物由来成分



取り組みはこれだけ・・・

- トレーサビリティの努力をしているP&G
- 植物性の石鹼素地を使用することを明言するサラヤ

豚由来成分

卵由来成分

乳由来成分

鶏肉由来成分

ヒアルロン酸等の

成鶏由来成分

その他動物性成分

食のために使わなかったとしても、その動物を利用する一部を構成している。

動物の扱い、殺し方に責任がある

- ◆ 動物性素材から離れること
- ◆ 使う場合は、アニマルウェルフェアの高い素材を使用すること